（第三種郵便物認可）　中国新聞　2025年（令和7年）3月17日（月曜日）　特集（18）
Sustainable Development Goals

8 働きがいも経済成長も

「半農×半ＩＣＴ」で農福連携

SDGs ひろしまトライ

薬草栽培やサイト制作 就労支援

一般社団法人 百人邑（広島市安佐北区）

広島市安佐北区安佐町飯室の竹坂地区に拠点を置き、精神障害者の就労を支援する一般社団法人「百人邑（ひゃくにんむら）」。利用者は薬草や野菜の栽培に汗を流す傍ら、情報通信技術（ICT）のスキルも身に付けて社会復帰を目指す。耕作放棄地が目立つ山あいで、「半農×半ICT」による農福連携が新たな活気を生んでいる。（金刺大五）

段々畑を見渡せる高台で竹添さん（右端）とミーティングをする利用者たち

あちこちに雪が残る地区内の段々畑。2月下旬、夏野菜の栽培に向け、利用者たちが土作りに励んでいた。微生物のすみかとなる竹炭をまき、耕運機で畑を掘り起こす。斜面に点在する畑は計1㌶。農作業や移動などで、それぞれ1日1万歩は歩くという。

その畑を見下ろす古民家で、別の利用者たちがパソコンに向き合う。取り組むのは外部のウェブサイトを更新する作業。法人として45の民間企業や団体と取引し、サイト制作やデータ入力などを請け負っている。

百人邑の利用者は、軽度なうつ病などを患う20～50代の15人。午前8時から休憩を挟み午後2時まで働く。かつてハードワークで体調を崩し、百人邑に通い始めて2年目の男性（49）は「仲間と一緒に土の栽培に向け、利用者たちが土作りに励んでいた。微生物のすみかとなる竹炭をまき、耕運機で畑を掘り起こす。斜面に点在する畑は計1㌶。農作業や移動などで、それぞれ1日1万歩は歩くという。

その畑を見下ろす古民家で、別の利用者たちがパソコンに向き合う。取り組むのは外部のウェブサイトを更新する作業。法人として45の民間企業や団体と取引し、サイト制作やデータ入力などを請け負っている。

百人邑の利用者は、軽度なうつ病などを患う20～50代の15人。午前8時から休憩を挟み午後2時まで働く。かつてハードワークで体調を崩し、と自信を深める。就労支援を受け、昨年は3人が広島県庁や福祉関係の事業所に就職した。

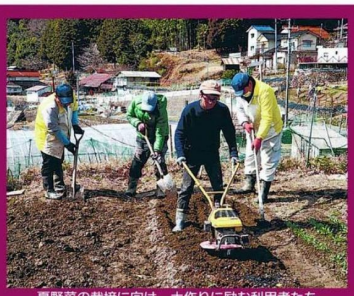
2016年、代表理事の竹添覚二さん（65）が実家のある竹坂地区で活動を始めた。もともとは中区でICTの業務を請け負っていたが、古里を活気づけたい思いと「自然の力が人を癒やす」との信念から一念発起した。

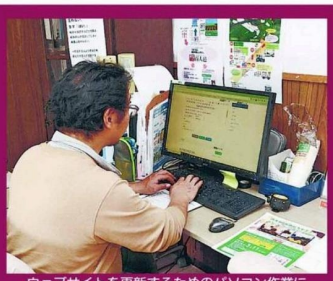
入浴剤に使われるトウキなど薬草の栽培に力を注ぎ、当初は10㌃ほどだった畑はいま約10倍に拡大。野菜も含む農業分野の収入は、24年2月決算で約800万円に上る。

「就労継続支援A型事業所」は経営が難しいとされるが、百人邑はICT分野でも約900万円を売り上げる。官公庁などから除草作業も受託し、竹添さんは領域の異なる「三本の矢」で収益を安定させている。

職員は8人。看護師の資格を持つ池内順子さん（51）は「生き生きと変わっていく利用者の皆さんの姿に驚く。共に成長したい」。調理を担う山村幸世さん（61）も「ここは空気がおいしく仕事でおなかも減る。しっかり満たしたい」と笑う。

今後さらに栽培面積を増やし、「薬草の里」にする構想を描く竹添さん。「おのおのが目標を持って頑張り、さまざまな力を蓄えることのできる居場所でありたい」と力を込める。


夏野菜の栽培に向け、土作りに励む利用者たち


ウェブサイトを更新するためのパソコン作業に打ち込む利用者

畑で収穫した薬草と薬草入り入浴剤などの商品

利用者の昼食向けのカレーやサラダ。事前予約すれば外部の人も有料で味わえる

そばにいる人を「楽」にするのが働くことの意義と強調する竹添さん

利用者のチームワークに感心することが多いという池内さん

食事作りから相談役まで。母親代わりを自負する山村さん

農業の振興とともに、障害者の生きがいづくりを通じた社会参画の拡大を目指す農福連携。国は、農業分野で喫緊の課題である労働力確保の面でも注目する。障害者の働く場の確保や賃金の向上、地域交流に官民挙げて取り組む姿勢でいる。

国は2024年に示した農福連携の新たな推進ビジョンで、30年度末までに実施主体の数を22年度末の2倍の1万2千以上にする目標を設定。農福連携は持続可能な開発目標（SDGs）の「働きがいも経済成長も」に通じると位置づける。

一般社団法人日本基金（東京）は、23年にまとめたアンケートで農作業による障害者の身体や健康の変化を調査。農福連携に取り組む549の福祉事業所が答え、「体力が付き、長い時間働ける」「よく眠れるようになった」などの効果が報告された。

学生と一緒に百人邑で交流を続ける広島修道大の広本政幸教授（行政学）は「利用者が社会で活躍するためのさまざまな技術を身に付ける『受け皿』が豊か。太陽の光を浴び、生活のリズムも整う」と評価する。

農福連携の実施主体
30年度末目標
1万2000以上

月１回掲載します

ALL for SDGs HIROSHIMA

5年目で
さらに広がる
SDGsの輪。

2014年に国連サミットにて採択された持続可能な開発目標（SDGs）では、
2030年までに達成する17のゴールが定められました。
私たち中国新聞社も2021年、「SDGsメディア・コンパクト」に加盟し、取り組みを推進しています。
誰もがSDGsを体験できるイベントの開催や、
紙面で地元企業のSDGsの取り組みなどを紹介する本企画も、5年目を迎えました。
今年も引き続きSDGsに貢献する活動を行う地域の方々を紙面やWEBで紹介することで、
広島のSDGsアクションの加速に貢献したいと考えています。

企画制作／中国新聞社 地域ビジネス局

©The Chugoku Shimbun